



# 薬局通信 第101号



大阪母子医療センター

## 新規試用または採用、採用区分が変更になった医薬品一覧

新規試用医薬品	新規採用医薬品	患者限定医薬品
プロウベス腔用剤 10mg アミパレン輸液 200mL ソルゲンスマ点滴静注	ムーベン配合内用液 ボルヒール組織接着用 1mL・3mL・5mL ツロブテロールテープ 1mg「YP」	クラシエ猪苓湯エキス細粒 アロプリノール錠 100mg「サワイ」 塩酸プロカルバジンカプセル 50mg「TYP」 メキニスト錠 0.5mg ハラヴェン静注 1mg ヒュミラ皮下注 40mg・80mg ペン 0.4mL・ 0.8mL リスモダンカプセル 100mg
院外専用医薬品	採用中止医薬品	
サムスカ OD 錠 15mg ツムラ麻黄附子細辛湯エキス顆粒（医療用） サラソスルファピリジン腸溶錠 500mg「日医工」 クラシエ加味帰脾湯エキス細粒 シナール配合錠 エンブレル皮下注 50mg ペン 1.0mL ジュンコウ補中益気湯 FC エキス錠医療用 ザジテン点鼻液 0.05% イムラン錠 50mg ストロメクトール錠 3mg	ツロブテロールテープ 1mg「サワイ」	

採用薬品の処方開始は、原則として **2020年7月1日** からとなります。

ただし、採用中止薬、切り替え等は院内在庫薬がなくなり次第実施となりますので開始日が異なる場合があります。

## 薬事委員会からのお知らせ

### ・販売中止などにより変更した医薬品

No	院内採用削除薬	理由	当院採用薬での代替薬など
1	アカルディカプセル 1.25	販売中止	ピモベンダン錠 1.25mg 「TE」
2	ツロブテロールテープ 1mg 「サワイ」	先発品の薬物動態と合わせるため	ツロブテロールテープ 1mg 「YP」
3	ザイロリック錠 100	後発品切替	アロプリノール錠 100mg 「サワイ」
4	ゲムシタピン点滴静注用 200mg 「ホスピーラ」	機構内の採用薬と 合わせるため	ゲムシタピン点滴静注用 200mg 「ヤクルト」
5	ゲムシタピン点滴静注用 1g 「ホスピーラ」		ゲムシタピン点滴静注用 1g 「ヤクルト」

### ・その他

- ① サニコット EQ が新型コロナウイルスの影響により、納品不可能になったため、代替品としてサニコット MEI へ変更した。供給再開し、サニコット EQ へ戻した。
- ② ピオクタニン 1% 溶液使用規定における継続使用の診療科を追加（脳神経外科、眼科）。  
理由：昨年度調査時、手術以外に使用する診療科を調査していなかったため。
- ③ セフメタゾン静注用の後発品切替を保留。  
理由：切替予定であったセフメタゾン静注用の後発品が、抗菌薬全体の供給不安により入手困難になったため。

## 新規試用医薬品

- ① **プロウパス腔用剤 10mg** 劇薬・処方箋医薬品  
(フェリング・ファーマ株式会社) 子宮頸管熟化剤 (プロスタグランジン E2 製剤)  
一般名：ジノプロストン

### 採用理由

分娩誘発を成功させるためには、十分な子宮頸管熟化が必要である。しかし、従来の機械的子宮頸管熟化法（ラミナリア、ミニメトロ、オバタメトロ）では、十分な子宮頸管熟化が得られない症例が存在する。また、機械的子宮頸管熟化が行いづらい症例（破水症例）も存在する。そのような症例に対して、プロウパス腔用剤による薬物的子宮頸管熟化が必要なため。

### 効能効果

妊娠 37 週以降の子宮頸管熟化不全における熟化の促進。

### 用法用量

本剤 1 個を後腔円蓋に挿入し、最長 12 時間腔内に留置する。

処方区分：院内処方可

長期投与の可否：該当しない

薬価（目安）：20,000 円/錠 ※本剤は保険給付の対象とならない（薬価基準未収載）

## ② アミパレン輸液（200mL 袋） 処方箋医薬品

（株式会社大塚製薬工場）総合アミノ酸製剤（10%）

一般名：高カロリー輸液用総合アミノ酸製剤(4)注射液

### 採用理由

採用薬アミニックの添付文書の「小児等への投与」の項目に、「低出生体重児、新生児、乳児、幼児又は小児に対する安全性は確立していない。（使用経験が少ない）」に記載がある、幼児と小児の記載がアミパレンにはないため。

### 効能効果

下記状態時のアミノ酸補給

低蛋白血症 低栄養状態 手術前後

### 用法用量

#### 中心静脈投与

通常成人は 1 日 400～800mL を高カロリー輸液法により中心静脈内に持続点滴注入する。

なお、年齢、症状、体重により適宜増減する。

#### 末梢静脈投与

通常成人は 1 回 200～400mL を緩徐に点滴静注する。

投与速度は、アミノ酸の量として 60 分間に 10g 前後が体内利用に望ましく、通常成人 100mL

あたり約 60 分を基準とし、小児、老人、重篤な患者には更に緩徐に注入する。

なお、年齢、症状、体重により適宜増減する。

生体のアミノ酸利用効率上、糖類輸液剤と同時投与することが望ましい。

処方区分：院内処方可

長期投与の可否：該当しない

薬価：348 円/袋

## ③ ソルゲンスマ点滴静注 再生医療等製品

（ノバルティスファーマ株式会社）ウイルスベクター製品

一般名：オナセムノゲン アベパルボバク

### 採用理由

脊髄性筋萎縮症（SMA）に対する遺伝子治療薬で、すでに治験でその有効性が報告されている。SMA は乳児死亡における最も多い遺伝要因のひとつ（10,000 出生に 1 人）であり、当科の診療対象疾患であるため。

### 効能効果

脊髄性筋萎縮症（臨床所見は発現していないが、遺伝子検査により脊髄性筋萎縮症の発症が予測されるものも含む）ただし、抗 AAV9 抗体が陰性の患者に限る。

### 用法用量

通常、体重 2.6kg 以上の患者（2 歳未満）には、 $1.1 \times 10^{14}$  ベクターゲノム (vg) /kg を 60 分かけて静脈内に単回投与する。本品の再投与はしないこと。

2歳未満で13.6kg以上の患者には、体重に基づき投与液量を算出すること。

処方区分：院内処方可

長期投与の可否：該当しない

薬価：167,077,222 円/患者（1患者に対する投薬量が変わっても、1患者当たりの薬価は変わらない）